

## [生活]

# 非認知能力の育成を目指した生活科の実践 - 非認知能力を発揮したり育んだりする子どもの姿から -

下鳥 陽代\*

### 1 はじめに

#### (1) 主題設定の意図

近年、グローバル化の進展、AI技術の進歩や加速、自然災害や新型コロナウイルス感染症など、社会や経済、環境など様々な分野で予測できない大きな変化が起こっている。このような時代には、「前向きに問題解決に向かったり、目標をもって粘り強く課題と向き合い続けたり、自分一人ではできないことであっても、他者と協働して解決したりしていかうとすること」が大切になっていくと考える。こうした問題解決に向かう姿を支えているのは、「粘り強さ」「誠実性」「好奇心」「共感性」「自信」等といった非認知能力である。OECD (2015) は、子どもたちが望ましい結果を達成するために、非認知能力と呼ばれる社会情動的スキルを学習する必要があると提起している。また、「子どもが目標を達成し、他者と協力し、感情をコントロールする能力を向上させる社会情動的スキルが、人生での成功において重要な推進力のひとつになりうる」ことを示唆しており、「こうしたプロセスに関係する具体的なスキルには、忍耐力、社交性、自尊感情などが含まれる」と示している。小塩 (2021) は、「非認知能力は環境によって変化する部分が多いことから、教育や子育ての介入によって変化する事が期待されている」とし、無藤 (2016) も、「非認知能力は幼児期から小学校低学年に育成するのが効果的」という研究成果が注目されていることを挙げている。つまり、非認知能力は教育によって育成可能であると言える。また、非認知能力の育成については、中山 (2018) が、「コミュニケーション力のように状況や文脈に応じて実践するための非認知能力を獲得・向上するためには、自分から様々な体験を通じて学んでいく必要がある」と指摘しており、体験を通して学んでいく必要性も伺える。

このようなことから、非認知能力は育成可能であり、体験を重視する低学年の生活科の学習を通して学んでいくことで、意図的に育成していくことができるのではないかと考えた。

#### (2) 問題の所在

我那覇 (2022) は、「教師が児童の非認知能力を含む能力の向上を見取ったり、どのような過程で向上したのか理解したりすることによって今後の授業改善に生かすことも期待できる」とし、一方で、「非認知能力の効果的な教育実践の事例が少ない」という現状についても述べている。そこで、非認知能力を育むための具体的な手立てを講じた生活科の実践に取り組む。

### 2 研究の目的

非認知能力である「粘り強さ」「誠実性」「好奇心」「共感性」「自信」の育成を目指した生活科の単元開発を行い、実践において見られた児童の姿から、非認知能力の育成に有効な内容や手立てについて考察する。

### 3 研究の方法

#### (1) 実践の対象

① 実践期間：令和5年4月～7月

② 対象児童：公立小学校 2年2組 25名

対象児童のうち、興味のあることへの関心は高いが、それ以外のことや友達への関心が低く、書くことに苦手意識のあるA児（女子）と、昨年度の生活科で友達と場は共有しているものの対象の動物とのかかわりが少なく、友達とのかかわりにも課題があるS児（男児）を、抽出児童とした。

③ 対象活動：生活科の学習「わくわくチャレンジファーム」

畑作りから自分たちで行い、一人一人が栽培する野菜を決め、日々の世話と観察、記録を通して野菜の変化に気付き、よりよく育てるために仲間と問題解決に取り組む体験活動

\*上越市立大手町小学校

## (2) 検証の方法

### ① 子どもの姿や作文シート、日々の日記等の記録から、非認知能力を発揮している姿や場面を見取る

「野菜」とのかかわりの中で生み出される活動において、子どもの姿や作文シート、日々の日記等の記録から、非認知能力を発揮している姿や場面を見付ける。非認知能力の育ちが活動場面でどのように表れていくのかについて、子どもの心の動きやその行動が生まれたそれまでの過程を読み取っていく。子どもの行動の変化から変容を見取り、非認知能力を育むために有効な手立てを考察する。

### ② 子どもの教育アンケートの変容を見取る

子どもの変容の1つの視点として、昨年度末の教育アンケートと、今年度の1学期末の教育アンケートを比べる。

## 4 研究の実際

### (1) 非認知能力の構成要素について

OECD (2018) の社会情動的スキルをもとに、小塩 (2021) の非認知能力と中央教育審議会 (2016) の学びに向かう力、人間性等を構成する要素を整理し、表1にまとめた。これを参考に、本研究で目指す非認知能力と具体的な姿を次のように設定し、その育成に向け取り組んだ。

表1 非認知能力の構成要素と本研究で目指す非認知能力

各研究視点	社会情動的スキル (OECD, 2018)	非認知能力 (小塩真司, 2021)	学びに向かう力、人間性等 (中央教育審議会, 2016)	本研究で目指す非認知能力と子どもの姿
目標の達成	目標の達成 ・忍耐力 ・自己抑制 ・目標への情熱	・誠実性 ・グリット ・自己制御・自己コントロール ・好奇心 ・批判的思考 ・時間的展望	・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力 ・持続可能な社会づくりに向けた態度	○粘り強さ ○誠実性 →自分が定めた目標に向けて、粘り強く課題と向き合い続けようとする姿 ○好奇心 →新しいことや未知のことにも興味をもち、知りたい、やってみたいと思いを抱く姿
他者との協働	他者との協働 ・社交性 ・敬意 ・思いやり	・共感性	・よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度 ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力 ・リーダーシップやチームワーク、感性、優しさ思いやりなど人間性	○共感性 →他者の気持ちを共有し、より深く相手とつながろうとする姿
感情のコントロール	感情のコントロール ・自尊心 ・楽観性 ・自信	・楽観性 ・感情調整 ・セルフ・コンパッション ・マインドフルネス ・レジリエンス ・エゴレジリエンス	・自己の感情や行動を統制する能力	○自信 →自分の学びや成長に気付いたり、自分のよさを認めたりする姿

### (2) 研究の仮説

筆者のこれまでの生活科の実践を振り返ると、自分で育てたい野菜を選び、野菜を収穫したら誰とどんな風に食べたいのかという思いや願いを明確に抱いていた子どもは、自分から進んで畑に行き、積極的に野菜の世話に向かっていた。毎日世話をする中で、野菜の変化に気付き、野菜の成長を喜び、さらに野菜への愛着を高めながら、野菜と共に成長していく姿が見られた。一方で、自分から進んで畑に行くことが少なく、野菜とのかかわりが少ない子どもは、野菜の変化や成長にも気付きにくく、観察日記や作文シートでの振り返りにも、思いや気付きが少ない。

中山 (2023) は、「非認知能力の育成に必要なのは本人が自らの中にもち得る意識、周囲からもたせられるのではなく、自分からもとうとする意識によって変容・発達する可能性を有している」とし、非認知能力を伸ばしていくためには、「子どもが誰と出会い、どんな経験をし、何を学んで自らの意識につなげられるかが重要である」と指摘している。こうしたことから、生活科の活動では、子どもに「やってみたい」「挑戦してみたい」という好奇心を、いかにもたせることができるのか、対象とかかわらずにはいられなくなるような思いを抱かせる意図的な手立てが重要となる。

### (3) 非認知能力を育む具体的な手立てについて

子どもが学習対象となる野菜について、「野菜を大きく育てたい」「作った野菜をおいしく食べたい」といった思いや願いを抱き、好奇心を高めている姿を引き出していきたい。そうすることで子どもは、野菜を育てるために必要な準備など、課題に向かって取り組む誠実性を発揮していけよう。さらに、野菜を育てる中で出会う虫や病気などの様々な問題や困難に対して、仲間と共に解決方法を考え、協働しながら向き合っていくことで、共感性や粘り強さが育まれていけよう。野菜が成長し収穫を迎えた時、自分たちで作った野菜を味わい、その喜びを実感した子どもは、これまでの自分の世話や仲間と共に困難を乗り越えてきたことを振り返り、成長した自分に自信をもつだろう。このようにして、野菜を栽培する活動を通して、子どもは非認知能力を発揮し、育んでいくと予想される。子どもが野菜や仲間と積極

的にかかわることができるような意図的な仕掛けや手立てを仕組んでいくことが、このような非認知能力を効果的に発揮したり育成したりすることにつながっていくと考え、手立てについて以下のように設定した。

表2 非認知能力を育む具体的な手立てについて

育みたい非認知能力	引き出したい姿とそのために必要な手立て	具体的な手立て
好奇心	○野菜を育ててみたくなる姿 ○対象に毎日かかわりたくなる姿 ○野菜についてもっと知りたい、やってみたいという思いをもつ姿 ⇒活動の原動力となる思いや願い	①生活科でやりたいことの共有の場の設定、市への見学、苗屋や野菜の師匠との交流、自分で野菜の苗を選び購入する体験 ②ICTを用いた観察日記（グロウン日記）で、毎日育てている野菜の写真と観察日記を記録すること、 ③野菜トーク（毎朝）やグロウントーク（グロウン日記を見せながら行う、週1）、「よ〜く見ると」（ひみつ探し、不定期）などでの野菜の成長に気付き、喜びを共有する場の設定
粘り強さ 誠実性	○一人ではできないことを、協力して行う姿 ○目標や課題に向かって粘り強く取り組む姿 ⇒明確な課題設定と協働的な目標	④わくわくチャレンジファームに置くテーブルづくりや看板づくりなど、協働が生まれる活動の設定 ⑤虫・鳥・病気対策をどうするのかについて話し合い、解決に向けて行動すること ⑥わくわくチャレンジファームで収穫した野菜を使ったイベントを計画し、実現すること
共感性	○野菜への愛着を深め、野菜に寄り添う姿 ○必然的に対象にかかわることで、日々の変化に気付き、野菜への思いを高める姿 ⇒継続的なかわり	⑦育てている野菜に名前を付けること ⑧登校したら、わくわくチャレンジファームにマイ椅子を置き、野菜の世話をしたり観察日記を書いたりするルーティーンを意図的に作ること
自信	○野菜を収穫できた喜びや味わうことのできた喜びを実感し、自分や仲間の頑張りに気付く姿 ⇒振り返りによる自己認識	⑨自分たちで考えたイベントの実現と振り返りの場 ⑩観察日記や学びノートで、野菜の成長や自分の頑張りの思いを言葉で表現し、振り返ることができるようにすること

※観察日記（グロウン日記）とは、ICTのアプリを使って、写真と日記を記録したもの

※グロウントークとは、記録された観察日記をもとに、野菜の変化や成長についての対話すること

## 5 授業の実際と考察

### (1) 子どもの姿や作文シート、日々の日記等の記録から見られた非認知能力を発揮している姿や場面

#### ① A児

表3 A児の記録

日時	A児の姿・場面 学びのノート、グロウン日記、作文シートの記述より	その行動が生まれた過程や具体的な手立てとの関連	発揮・育成されている非認知能力
5月11日	「今日、師匠に野菜のことを聞きました。師匠は、植えるのは難しいと言っていました。野菜を大切にしないとなってしまいました」（学びのノート）	①野菜の師匠（用務員）から、野菜作りの準備や育て方を教えてもらった。	【好奇心】 野菜を大切にしたいという思い
5月12日	「朝市で買ったオクラ。色が黄緑色だよ。ちくちくしてた。成長するとどうなるのかな」（観察日記）	①朝市に出かけ、自分で選んでオクラの苗を購入した。	【好奇心】 未知のことを知りたいという思い
5月23日	「今日、探究でオクラくんが伸びていました。オクラくんも元気になっているんだね」（学びのシート） 「オクラくん」と呼んだり、元気なことを喜んだりする姿	⑦グロウン日記に野菜の名前を付けている友達の姿を見て、自分でオクラくんという名前を付け、呼び始めた。	【共感性】 名前を付けて愛着をもつ、野菜の様子を思いやる
6月6日	「今日、オクラくんを見たら、葉っぱに変な色のものがありました。9枚くらい葉っぱがありました。なんか、実みたいなものがありました」（学びのノート）	③「よ〜く見ると」という、野菜をよく見てひみつを見つける活動を行った。	【好奇心】 新しいひみつを見つきたいという思い
6月12日	「今日、オクラを見たら、葉っぱがたくさんでびっくりしました。あと、赤ちゃんが2つもありました。はっぱが11まいあったり、赤ちゃんがあることがすごいです。赤ちゃんがわかったことは、なんか実みたいなのがすぽとぬけて、赤ちゃんってわかりました。うれしい。イエーイです」（作文シート）  写真1 オクラの赤ちゃんを発見し、驚くA児 「今日、オクラくんを見たら、オクラくんの茎が葉っぱだらけでびっくりしました。そして、探究でオクラくんを見たら、実みたいなのところ、実みたいなのがあってすぽとぬけました、そしてすぽとぬけた正体の中は、オクラの赤ちゃんで、びっくりしました。うれしいです」（学びのノート）	②③⑩生活科（探究）の時間に、観察日記を見せながら、野菜の成長を友達と対話したり全体で共有したりするグロウントークを行った。スイカを育てているY児が、スイカの赤ちゃん（小さな実）ができていることを話すと、A児も、自分のオクラくんにも実のようなものがあったことを話し、確認したいと畑に行った。そして、実のようなものの上にかぶさったものを取ると、下から赤ちゃんの実が出てきた。赤ちゃんの実が出てきた大発見を嬉しそうに話し、その後の作文シートや学びのノート（日記）にも、思いをたくさん書き綴った。「今までで一番いっぱい書けたよ」と、嬉しそうに話した。	【好奇心】 友達の話聞いて、自分の野菜はどうか確かめたい 【自信】 野菜の新たな発見ができた事への喜びと、たくさん書いて表現することができたという手応え
6月22日	「今日、オクラくんを見たら、オクラくんにつだけ赤ちゃんみたいに大きいつぼみみたいなよく分からないものがありました。この意味が分からないものことは、何だろうなと思いました。小さいつぼみも大きくなっていました。葉っぱは、35枚くらいありました。オクラくんも、ほく大きくなったんだよって言うてるかなって思いました。うれしかったです。よかったです。」（学びのノート）	②⑩毎朝、観察日記を書いたり、観察日記の写真を見たりすることで、オクラの変化や成長に気付き、友達や先生に嬉しそうに話していた。	【好奇心】 新たな発見をし、なんだろうと不思議に思う 【共感性】 野菜の気持ちを想像し、思いを寄せる
6月27日	「今日、オクラくんをみたら、オクラくんが花が咲いていたよ。うれしいよ。丸い花だったよ。うれしいよ。世界一うれしいよ」（観察日記）	②③⑧登校し、朝一番にオクラの花が咲いていたことに気付いた。朝の健康観察時に、「今日は世界一うれしいです。オクラくんが花が咲いたからです」と笑顔いっぱい話した。花が咲いたことをみんなに伝えたい、知ってほしいという思いが見られた。	【共感性】 野菜の新たな成長に思いを寄せ、心から喜び、他の人にも知ってほしい伝えたいという思いを共有しようとする

6月30日	「今日、オクラくんをみたらオクラくんに変な物があったよ。あと凶鑑で調べるよ。オクラくんの帽子が生まれたよ。うれしいです」(学びのノート)	②③⑧⑨毎日の観察から、オクラの新たな変化に気付いた。これまでの経験から、分からないことは凶鑑で調べようという考えをもった。	【好奇心】 新たな発見や不思議を見付け、調べてみたいと思う
7月3日	「今日オクラくんをみたら、2個収穫できそうだよ。10cm超えたよ。あとで先生に話すよ。うれしいよ」(観察日記) 「今日オクラくんをみたら、オクラくんを収穫できたよ。初めてです。さわったら、もふもふしてたよ。うれしいよ。もう1本明日取れるオクラがあったよ」(学びノート)	②③⑧⑩オクラの初収穫。収穫できそうな喜びを観察日記に記し、その後収穫すると、友達にも収穫できたことを嬉しそうに伝えていた。	【共感性】【自信】 野菜が収穫できた喜びの実感。友達にも知ってほしい、教えたいという思い
7月19日	「今日オクラくんを見たら、5本とれたよ。イベント用にしたよ。イベントで使っておいしいと思う」(学びのノート) 「今日、イベントがありました。グループで野菜を選んだり時間がかかったけれど、作って食べるのが気持ちよくなったなって思いました。みんなで頑張ってたじゃがいもがおいしかったなって思いました。自分で作ったお野菜や友達が育てたお野菜もおいしかった。とくに、トウモロコシがめちゃくちゃおいしかったなって思いました。作るのは最初は少し怖くなって思いました。けど、意外と簡単でした。楽しかったです。うれしかったです。おもしろかったです。みんなすごかったです。」	⑨⑩夏野菜イベントの実施。収穫した自分の野菜もイベントでみんなに食べてほしいと提供した。イベントでは、冷やし野菜や焼き野菜(BBQ)に使うための野菜を、友達と協力しながら切っていた。赤紫蘇ジュースで乾杯し、自分たちで取れた野菜を味わった。	【共感性】 自分のオクラをみんなにも食べてほしいと思う 【自信】 自分の野菜も友達が育てた野菜もおいしいと喜び、みんながすごかったと頑張りを振り返る
7月24日 1学期の 終業式	「1学期頑張ったことは、探究です。毎日活動する探究は、成長できました。オクラのことを調べたり頑張りました」(学びのノート)	②学びのノートに、1学期頑張ったことを書き、振り返った。	【粘り強さ】【自信】 毎日お世話をし活動し続けてきた自分の頑張りに気づき、成長を実感する

(※具体的な手立てとの関連にある番号は、表2の具体的な手立てに記した番号とした)

毎朝、マイ椅子(お世話や観察をするために図工で製作したもの)を持ってファームに行き、観察日記を書くために野菜の写真を取ったり世話をしたりする継続的なかわりによって、野菜の様子を思いやり、愛着を深めていくA児の姿が見られた。そして、野菜の成長を心から喜び、友達とその思いを共有したいといった野菜や仲間に対しての共感性の高まりが見られた。

さらに、野菜への愛着が深まることによって、野菜のことをもっと知りたいという思いや願いが原動力となり、野菜トークやグロウトークで新たな発見を友達に伝えたり友達の野菜の様子を聞いたりして、「自分の野菜もそうなのか確認したい」という好奇心が育まれていた。毎日観察日記を書き、よく見ているからこそ、野菜の変化を見逃さず、新しい発見や成長に気づき、自分の野菜のことを知ってほしい、友達と一緒に共有したいという思いや願いをさらに高める姿につながっていた。野菜を通して、話したり書いたり表現の場を広げ、表現力の高まりも見られた。

## ② S児

表4 S児の記録

日時	S児の姿・場面 学びのノート、グロウン日記、作文シートの記述より	その行動が生まれた過程や具体的な手 立てとの関連	発揮・育成されている 非認知能力
5月12日	「朝市でトマトをかったよ。はっぱがぎざぎざしてたよ。よくトマトが育ってほしいです」(観察日記)	①朝市に出かけ、自分で選んでトマトの苗を購入した。	【好奇心】 早く育ってほしいと思いを膨らませる
5月13日	「野菜の植える準備をして、楽しかったよ。野菜を植える準備で、スコップで土を掘って、楽しかったよ。K君と一緒に穴を掘って楽しかったよ。手で土を平らにして、楽しかったよ。土を平らにしたことを頑張ったよ」(作文シート)	④野菜を育てて食べたいという思いから、野菜を植える準備を友達と協力して行っていた。	【共感性】 友達と一緒に畑の準備を楽しむ 【誠実性】 野菜を植えるために、準備を頑張る
6月1日	「トマトの葉っぱが93枚あったよ。花が1個もなかったよ。今度トマトの花がたくさん出てほしい。トマトを使ってスープとかハンバーガーを作りたい。トマトがたくさんできてほしい。」(観察日記)	②⑧花が咲いている野菜が増え、朝、花が咲いている話が盛り上がった。これまで、あまりトマトの様子を見ていなかったが、自分のトマトには花があるのか確認した。1個もないことに気づき、たくさん花ができて欲しいという思いを観察日記に記した。	【好奇心】 自分の野菜はどうだろうと知りたくなる
6月6日	「トマトの葉っぱが100枚くらいあったよ。トマトの花が4個あったよ」(観察日記) 「今日の探究で、グロウトークをして楽しかったよ」(学びのノート)	③⑧野菜の成長や様子について友達と対話することを楽しむ	【共感性】 友達と野菜の話をするのが楽しいという思い
6月9日	「今日のトマトくんは元気かな。トマトくんの葉っぱが95枚あったよ。トマトくんが早く育ってほしいよ」(観察日記) 「今日の20分休み、グロウン(観察日記)を書いて、楽しかったよ」(学びのノート)	②休み時間にも畑に行き、観察日記を書きたいという思いをもって書いていた。	【共感性】 野菜が元気かなと思いを想像し、寄り添う
6月12日	「トマトの葉っぱが102枚くらいあったよ。花が4個咲いたけど、2個は枯れてたよ。トマトの実が早く育ってほしいよ。みんなの話を聞いて、野菜のことを考えられて、楽しかったよ。ウリハムシをスプレーでみんなの野菜にかけて対策したり、ハンバーガーを作ったり、ソースを作ったり、トマトのふりかけを作ったりしたいよ。給食にも出してほしいよ。ジュースを作ったりして、楽しみたいよ。みんなのトマト、レタス、ナス、トウモロコシ、じゃがいも、きゅうり、枝豆、オクラを使って、パーティーをしたいよ」(作文シート)	③⑤自分のトマトのことを友達に伝えたいという思いをもち、グロウトークを楽しんでいた。友達が虫問題で大変なことを知ると、虫を対策したいという思いを抱き、ファームを追い払おうとする姿が見られた。活動後、作文シートを3枚に、自分の思いを書き綴っていた。	【粘り強さ】【共感性】 みんなの野菜を虫から守るために、何度も虫を追い払おうとする

6月14日	「トマトくんの実ができてうれしかったよ。トマトくんの葉っぱがダイヤみたいな形だったよ。トマトくん早く育ててね」(観察日記) 「今日の国語で、トマトのことを調べて楽しかったよ。今日の朝、トマトのみができてうれしかったよ」(学びのノート)	トマトの実の赤ちゃん発見グロウントークで友達が話していたことを、自分も知りたい、みんなに教えたいという思いを抱き、トマトのことをよく見るようになってきた	【共感性】 野菜の新たな成長に思いを寄せる
6月21日	「今日の探究で、サニーレタスとはつか大根を食べておいしかったよ。楽しかったよ。今度はトマトを食べてほしいな」(作文シート)	友達が作った野菜を食べてうれしかったことから、自分の野菜もみんなに食べてほしいという新たな思いや願いが生まれる	【共感性】 友達と野菜を味わう喜びを共有する
7月18日	「今日はすごくうれしかったよ。トマトが初収穫できてうれしかったよ。赤いトマトが4個もあったよ。うれしかったよ」	初収穫を喜び、友達、担任、その他その日に会った先生達にトマトが取れたことを嬉しそうに話した。	【自信】 野菜の収穫を喜び、いろんな人に伝える
7月19日	Mくん、Kちゃん、Mちゃんと一緒に、オクラ、きゅうり、ピーマンとかいろんな野菜を包丁で切って楽しかったよ、なすとピーマンとオクラをコンロで焼いて、楽しかったよ、みんなと一緒に食べて楽しかったよ。すごく楽しかったよ。赤紫蘇ジュースを飲んで、うれしかったよ。	夏野菜イベントの実現。自分たちで育てた野菜を使って、友達と調理したり味わったりすることを楽しむ。	【共感性】 友達と一緒に調理したり食べたりする楽しさを共有する

(※具体的手立てとの関連にある番号は、表2の具体的な手立てに記した番号とした)

野菜の写真を撮り、日記を書くという朝のルーティーンによって、必然的に野菜とのかかわりが生まれた。野菜の写真を見せながらグロウントークをすることを楽しみにし、自分の野菜について伝えたい思いを高めていた。また、友達との対話によって、育てているトマトの花や様子に目が向くようになり、自分の野菜はどうかと比べて確認しようとする中で、野菜とのかかわりが増えた。これは友達との対話から好奇心が生まれた姿と捉えた。野菜の新たな発見や成長を友達と伝え合い、喜びを共有しながら、野菜や仲間とのかかわりを深めていくところに、共感性が育む姿が見られた。

## (2) 子どもの教育アンケートの変容

### ① 学級全体の教育アンケートの変容

表5 教育アンケートの内容

アンケート項目	関連の深い非認知能力
①集めた情報がどんなつながりがあるのかやどんな関係があるのかを考えるのが楽しい	好奇心
②最後まで考え続けると、自分にとって大切なことを見付けられる	粘り強さ 誠実性
③友達の考えを認めたり、取り入れたりして、協力して活動する	共感性
④自分が考えたこと、表現したことを伝えるのが楽しい	自信
⑤学校の勉強や活動で、自分は成長している	自信
⑥自分にはよいところがある	自信

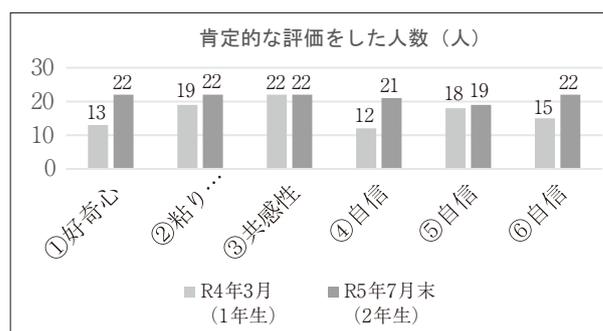


表6 学級全体の教育アンケートの結果

学級全体では、好奇心、粘り強さ、自信に関係の深いアンケート項目において、肯定的な評価をした人数に増加が見られた。共感性については、もともと高めであり、変化が見られなかった。

4月当初、生活科でやりたいことをみんなで話し合う場を設定することで、子どもは、野菜を作るだけでなくできた野菜を料理したり、そこで食べたりすることができる場もつくっていきたいという思いや願いを広げた。その思いや願いが基となり、その具現化を目指し、子どもは、「わくわくチャレンジファーム」の活動に意欲的に活動に向かっていた。

ICTを用いた観察日記では、小さな変化を見逃さず、野菜の成長を捉え、野菜への愛着を高める姿が見られた。また、ファームにマイ椅子を出すことで、仲間が集う場ができ、必然的に友達や野菜とのかかわりが増え、野菜の成長に気付いては友達と一緒に喜んだり、葉の色が変わって病気ではないかと心配したりする姿が見られた。さらに、野菜トークやグロウントークでの友達との対話の場の設定によって、自分の野菜と友達の野菜を比べて新たな発見をし、もっと野菜のことを知りたいという好奇心をはたらかせる姿や、野菜の成長を実感し自信をもつ姿が見られた。また、野菜への愛着が高まった子どもは、毎日のように訪れる虫や病気などの困難を解決するために、仲間と協働しながら解決策を考え、野菜を守るためにできることに取り組んだ。こうした姿は、粘り強く課題と向き合い続ける姿につながった。そして、様々な困難を乗り越え、野菜を収穫し、みんなで味わう喜びを実感した子どもは、自分や仲間の頑張りに気付き、「自分もみんなもあきらめないでわくわくして助け合ったからできた」と自信を高めていた。

## ② 抽出児童の教育アンケートの変容

表7 教育アンケート  
(1. 大変そう思う 2. 思う 3. どちらともいえない 4. あまり思わない 5. 思わない)

アンケート内容	関連の深い 非認知能力	A児		S児	
		R4年3月末	R5年7月末	R4年3月末	R5年7月末
①集めた情報がどんなつながりがあるのかやどんな関係があるのかを考えるのが楽しい	好奇心	2	2	5	2
②最後まで考え続けると、自分にとって大切なことが見付けられる	粘り強さ 誠実性	1	1	1	1
③友達の考えを認めたり、取り入れたりして、協力して活動する	共感性	2	2	1	1
④自分が考えたこと、表現したことを伝えるのが楽しい	自信	2	2	5	2
⑤学校の勉強や活動で、自分は成長している	自信	2	2	1	2
⑥自分にはよいところがある	自信	2	2	5	2

A児は昨年度から自己評価が高いこともあり、教育アンケートの内容からの変容は見られなかった。S児は、考えたり、表現して伝えたりすることに楽しさを感じるところや、自分にはよいところがあるというところに自己評価の向上が見られ、自信が高まっていることが分かる。実際の活動の姿や日々の学びのノートからも「楽しかった」「うれしかった」と話す姿が多くみられる。「もっとやりたい」と楽しく活動に向かうことで、楽しさをより感じ、野菜の成長など気付いたことを話したり書いたり表現することを喜ぶ姿も見られた。こうした姿が、「自分にはよいところがある」という自信をもつ姿につながったのではないかと考えられる。

一方で、A児もS児も、自己評価では共感性があるとしているが、実際の年度当初の姿では、友達とのかかわりが少なく、協力する姿もあまり見られなかった。活動の中で、協働する姿や、対象である野菜に寄り添い、思いを高める姿や、友達と協力する姿が見られた。見取りと自己評価のアンバランスさがあった。低学年の子どもにとって、アンケートでの自己評価の難しさがあるように思われる。

## 6 成果と課題

非認知能力を育むために、活動における具体的な子どもの姿を思い描き、そのための手立てを考え、実践をした。

実践を通して、児童の思いや願いを高めることで、好奇心や粘り強さ、共感性が発揮された。また、その際に体験と野菜に関する知識の獲得によって、好奇心がさらに発揮されたり、知識や自信が深まっていったりすることにつながっていく姿も見られた。一方で、S児のように、野菜や仲間へのかかわりが増え、共感性が育まれる姿が見られたが、観察日記や学びのシートには「楽しかった」等の思いが書かれていて、いつも似たような内容になってしまう姿も見られた。こうした子どもには、認知能力と非認知能力をつなぐ場面の設定が必要である。例えばA児のように、野菜に関する知識を得ることで、「もっと知りたい」と好奇心を発揮しながら、さらに知識を深めていくような場面である。このように、実践において子どもの非認知能力の見取りとその要因を結び付けて考察し、展開に生かしていくことや、認知能力との連関を大切に、意図的に活動を仕組んでいくことが重要である。今後は、発揮・育成したい非認知能力とそのために必要な認知能力との関連を明確にしていきたい。

## 【引用・参考文献】

小塩真司 (2021) 「非認知能力」北大路書房, p6

我那覇 (2022) 「小学校教育における非認知能力の実態把握及びその教育の可能性に関する研究」

経済協力開発機構 (OECD) (2018) 「社会情動的スキル」明石書店, p70, p205

白井俊 (2020) 「OECD Education2023プロジェクトが描く教育の未来」ミネルヴァ書房

田村学, 佐藤真久 (2022) 「探究モードへの挑戦-高度化・自律化を目指すSDGs時代の人づくり」人言洞

中山芳一 (2018) 「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」東京書籍, pp96~pp97

中山芳一 (2023) 「教師のための『非認知能力』の育て方」明治図書, pp29~30

西村徳行, 柄本健太郎 (2021) 「2030年の学校教育 新しい資質・能力を育成する授業モデル」

無藤隆 (2016) 「障害の学びを支える『非認知能力』をどうそだてるか」これからの幼児教育2016, ベネッセ教育総合研究所, pp18~21